

算数科学習指導案

単元名「割合の新しい表し方を調べよう(比)」(第6学年)

令和3年10月19日(火)第5校時 6年1組教室(旧図工室)
下仁田町立下仁田小学校 6年1組

I 単元の構想

1 単元の目標(育成を目指す資質・能力)および児童の実態

	単元の目標	児童の実態
知識及び技能	○比の意味や表し方を理解し、数量の関係で比を表したり、等しい比を作ったりすることができる。	
思考力 判断力 表現力等	○日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすことができる。	
学びに向かう力、人間性等	○生活や学習に、比が活用できる場面を見付けたり、生かしたりしながら、比による数量の関係への着目の仕方に親しめる。	

2 評価規準

【知識・技能(ア)】

- ・①二つの数量の大きさを比較しその割合を表す場合に、簡単な整数などの組を用いて表すことを理解している。
- ・②数量の関係を比で表すことができる。
- ・③比の値を用いて、等しい比かどうかを確かめられることを理解し、等しい比を作ることができる。

【思考・判断・表現(イ)】

- ・①二つの数量の関係を、比例の関係を前提に、割合で見てよいかを判断できる。
- ・②日常の事象における数量の関係に着目し、目的に応じて図や式を関連づけたり用いたりしながら、数量の関係を比に表し考察し、結論を導ける。

【学びに向かう力、人間性等(ウ)】

- ・生活や学習に比が活用できる場面を見付けたり、生かしたりしながら、比による数量の関係への着目の仕方に親しんでいる。

3 単元計画および指導方針

時	過程	学習活動	評価	ノート・ワークシート・ICT活用における指導方針
1	つかむ	比の表し方 ○「比」の用語とその意味を理解するとともに、2つの数量の割合はそのまま比で表せることを理解する。	ア①	・単位とするものが異なるがいくつかは等しいということに気付き、可視化できるように、タブレットや電子黒板を利用し、カップや大さじの図に書き込むよう促す。
2		○同じ割合でも、何を1と見るかによって、いろいろな比の表し方ができることを理解する。	ア②	・何を一とみるかによって比の表し方が変わることに気付けるように図が描かれたワークシートやデータを配付し、半具体物を使って説明できるようにする。
3	追究する(前半)	等しい比 ○「比の値」の用語とその意味、求め方を理解する。また、比の値を求めて等しい比を見つける。	ア③	・比の値や等しい比の意味が理解できるように、分量の図をワークシートやデータを配付し提示することで可視化する。
4		○比の性質を理解し、等しい比をつくる。	ア③ イ①	・等しい比では、同じ数をかけたり割ったりしても比は等しいということを理解できるように、矢印を書き示すようにする。
5		○比の性質をつかって、比を簡単にする方法を理解する。	ア③ イ①	・等しい比の性質を使って比を簡単にする方法が分かるように、既習事項をデータにまとめ振り返りやすくし、見通しがもてるようにする。
6		○小数や分数で表された比を簡単な整数の比になおす方法を理解する。	ア③	・様々な考え方に触れられるように、自分の考えを写真に撮り、共有しやすいようにする。
7	追究する(後半)	比の利用 ○2つの数量の比とその一方の量をもとに、他方の量を求める方法を考える。	イ② ウ	・二つの数量の比とその一方の量から他方の量の求め方が分かるように、線分図のワークシートやデータを配付し、考えるように促す。 ・線分図を活用した解決方法に気付けるように、電子黒板に線分図を提示し説明しながら解決が図れるようにする。
⑧ 本時		○ある量を、示された比に分ける方法を考える。	イ② ウ	・問題のイメージがもちやすいように、電子黒板にコーヒー牛乳の写真を提示する。 ・線分図を利用しながら考えられるように、ヒントカードをデータとして準備し、解決が困難な児童の手助けとなるようにする。
9	まとめ	○基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	ウ	・今まで学習したことを生かして問題に取り組めるように、既習事項をまとめたものを、教室の学習スペースに掲示する。

